みんなの文芸

引間豐作選　投稿数23句

松の幹眞紅の蔦に包まれて　下日野沢　江野　鎰子

（評）山野の木や崖にからんだり、住宅の塀や壁に這いまとわった青蔦も、晩秋の一霜ごとに、その掌状の葉を真紅にそめる。蔦紅葉と言って燃えるような紅葉は趣深い。ただしこれは夏蔦であって、冬蔦は冬でも青々としている。貞享五年に松尾芭蕉は、信州更科の名月を観るべく江戸を旅立った。その折の紀行が『更科紀行』で、有名な難所だった木曾上松と福島の間にある深い断崖に長い桟道があり、その桟に蔦がからんでいる光景を、「桟（かけはし）やいのちをからむつたかづら」と詠んでいる。

父の背の麦踏みはるか遠き事　皆野　髙橋　尚子
芒野に身巾径あり渡し跡　皆野　根岸　詩子
けものらの動き途絶えし山眠る　三沢　新井　民子
跳ねる子の影さえ愛し十三夜　皆野　太幡真由美
雲遊ぶ武甲嶺（そび）え冬に入る　三沢　長谷河ソノ
蔵王行くやせた芒の会釈かな　皆野　大沼シヅ子
砧てふ古き名の町月冴ゆる　下日野沢　髙山　ユウ
年老いて少し手を抜く菊造り　三沢　澤野　恒平
鰯雲とびの見まもるテラスかな　下日野沢　引間富美子
大声を合図に冬木切り倒す　皆野　市川　岳樹
留守電の消去ためらう月夜かな　国神　浅見　広行
傘寿近き同級会に秋惜しむ　三沢　眞下　杏子

中田久恵選　投稿数20首

持て余す秋の夜長は芳醇な赤のワインと啄木歌集　皆野　豊田喜美恵

（評）望郷の想いと漂泊の心を胸に名作をのこし二十七才の若さで帰らぬ人となった石川啄木。この豊田さんの歌の核は「芳醇な赤のワインと啄木歌集」である。辛苦の啄木歌集があまりにも有名なだけに、赤のワインとのアンバランスが妙にバランスのとれた歌になり豊田さんの力量を示している。ここに啄木の代表作とも云える短歌を三首選択してみた。「石をもて追はるごとくふるさとを出でしかなしみ消ゆる時なし」「はたらけどはたらけど猶わが生活（くらし）楽にならざりぢっと手を見る」「東海の小島の磯の白砂にわれ泣きぬれて蟹とたはむる」

平穏な明日を生きゆく証なくいたわり深まるひと日の充実　皆野　新井　愛子
老の園に姉を見舞えりその姉の涙に負けて言葉続かず　三沢　長谷河ソノ
歳たけて悲喜交々の人生を慰め合える友あり嬉し　下日野沢　浅見　豊子
文通の会いしことなき友よりの新米とどき電話はずめり　三沢　眞下　杏子
秋闌ける夕焼小焼のメロディーを聴きつつ塾の孫の帰り待つ　皆野　根岸　詩子
陰険な苛めにあいて無惨にも若き命を断つとは悲し　三沢　新井　叶子
いにしへの世相現はに串人形祭りに立ちし文化継ぎたる　三沢　新井　民子
拉致問題担当大臣又かわり困惑の親苛立ちの我　三沢　鈴木　貞恵
老いし父の松の手入れを手伝うと通いくる子に涙隠しぬ　皆野　関根　助市
秋さなか雨情句碑建つ万福寺美の山登る山路ありけり　皆野　原　和幸
拉致故に異国の空に遠き子等逢ふせなるやも運命（さだめ）悲しき　皆野　加藤マリ子
明日は刈る予定の稔り田無残にも一夜に猪に喰われしと聞く　三沢　長谷河光久
時ずらし植え付けしたる白菜の二畝ずつが程好く育つ　皆野　引間　万亀
在りし日の想い出偲び散さくすふかまる秋に山路静まる　国神　大塚善次郎

俳句・短歌を募集

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して総務課へお寄せください。

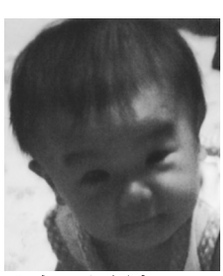
8日必着

1人1句、1首に限ります。

1歳のお誕生日おめでとう

奏祐（そうすけ）くん
駒形区
大澤　宣彦さん
麻奈美さん

お父さんとお母さんの子どもに
生まれてきてくれてありがとう♡



愛梨（あいり）ちゃん
下田野区
設楽　健一さん
繭美さん

２人のお兄ちゃんに囲まれて、
かわいい女の子になってね。

愛菜（あいな）ちゃん
国神区
清水　洋一さん
友紀さん

大好きな愛菜☆大きくなったら
お父さんの趣味の畑を手伝ってね！

瑠衣（るい）ちゃん
国神区
桝谷　竜さん
里恵さん

瑠衣☆笑顔と幸せをありがとう！
元気で優しい子に育ってね♡

1歳になる赤ちゃんを募集しています

ご応募いただいた赤ちゃんは、全員掲載します。誕生月の前月10日までに総務課窓口（写真をご持参ください）または、町ホームページからお申し込みください。

問合せ　総務課企画政策防災担当　☎62-1231